

# 高津区試合規則

2014. 4. 19

★公認野球規則および全日本軟式野球連盟の競技者必携と、次の各号に定める川崎市少年野球連盟の「試合規定(内規)」を適用する。

## (1) 試合時間およびイニング

- イ. 試合時間は1時間30分以内とする。1時間30分を超えて次のイニングには入らない。
- ロ. 試合回数は7イニングとする。7回を完了時、または時間制限時に同点の場合は、特別延長戦を行い、9回を完了しても決着がつかない場合は、抽選とする。
- ハ. 決勝戦についても同様とする。

## (2) 特別延長戦

継続打順とし、前回の最終打者を1塁にして、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で2回まで繰り返すこととする。

## (3) 得点差によるコールドゲームは採用する。

- 3回終了時以降10点差
- 5回終了時以降 7点差 (決勝戦は5回終了時以降 7点差のみ)★26年度監督会議で再確認

## (4) 特別継続試合

試合が天候等によって続行不可能となった場合は、

- 5回を終了している場合は成立試合とする。
- 5回以前および5回を過ぎて同点の場合、再試合にしないで後日「特別継続試合」として、試合が中断した箇所から試合を継続して行う。なお、特別継続試合は、中断した試合と通算して1時間30分まで行う。

## (5) 特別グラウンドルール

球審は、試合球場特有の「特別グラウンドルール」を定め、試合開始前に両チームに周知させ、これを適用することができる。

## (6) ベンチに入れる人員(選手以外は成人とする)および服装

- 登録され、ユニフォームを着用した監督(30番)・コーチ(29番・28番)の計3名。選手と同様の格好で。
- 登録され、ユニフォームを着用した選手(0~27番)【主将は10番】の計20名以内。
- チーム代表者・スコアラー・マネージャーの計3名とし、ユニフォーム姿を禁止する(上下とも)。

## (7) ベンチの中での電子機器(携帯電話・パソコンなど)の使用を禁止する。

メガホンは、1個に限り使用を認める。(ただし、使用は監督に限る。)

## (8) シートノックは、5分間とし後攻チームから行う。(ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用した監督ま

たはコーチとする。運営上、時間を短縮したり、シートノックをしないで試合を開始したりすることがある。

(9) 次の試合を行うチームは、前の試合の1時間経過または5回終了時に両チームの主将でトスを行う(監督が立ち合う:ユニフォーム姿)。ただし、打順表5枚は、多摩川に到着後、トスの行う時間の前までに本部席に提出すること。

(10) 次の試合のバッテリーは、5回終了後または1時間経過後

(野球規則では4回となった)グラウンド内ブルペンで投球練習をすることができる。また、監督をはじめ大人が立ち合うことは原則認めない。

(11) 用具・装具について

- 試合ボールは、ケンコーボールC号とする。(大会は本部で用意、リーグ戦はチーム2球を用意する。)
- 金属やハイコン(混合)バットは、JSBBのマークの付いた公認のものを使用すること。  
雷発生の危険に備えて、必ず木製バットを持参すること。★雷発生時、試合を中断することもある。
- 捕手は、連盟公認(JSBBのマーク)のマスク・レガース・プロテクター・ヘルメットおよびファールカップを必ず着用すること。(投球練習の際も着用すること)
- 打者・走者およびランナーコーチ・ボールボーイは、公認のヘルメットを着用すること。
- 打者・野手は、リストバンドの着用を禁止する。(ただし怪我をしている場合を除く。試合前に審判員に申告すること。)
- 金属製のスパイクは、使用しないこと。(ただし中学生は、使用可とする)

(12) 野球規則について

- 試合中、審判員に異議を申し立てることは禁止するが、ルール上の説明を求める場合は構わない。  
監督、またはそれに準ずる者が行うものとする。
- 規則3・03【原注】の前段は採用しない。したがって、投手の守備位置の交代は自由である。
- 規則8・02(a) 投手の禁止事項のうち、「ボールに異物をつけること」「どんな方法であってもボールに傷をつけること」だけ採用する。
- 投手(小学生)の変化球は、禁止する。(競技者必携〈30P〉16、学童野球に関する事項を参照)  
→変化球に対しては、ボールを宣告し、注意を与える。それでも続く場合は、投手を代える。
- 3塁への偽投を禁止する。(規則8・05)

(13) ボールデットは、ルール(特別グラウンドルール含む)に則った方法で行う。

(14) バッターランナーの1塁へのスライディングを禁止する。(けが防止のため)

(☆全日本学童上部大会、日ハム新人戦川崎市大会ではこれは該当しない)

(15) ベースが移動した場合は、ベースのあった付近にいればベースに触れているものとみなす。

# 注 意 事 項

## 1. ファールボールの処理

ファールボールが打たれた場合は、1塁側のものは1塁ベンチ、3塁のものは3塁ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理する。(後方のボールを取り合いにならないように)

2. 攻守交代の時には、ボールを投手板近くに置いて交代する。ただし、天候不順の場合は審判員に渡す。

## 3. 試合のスピードアップについて

①投手の準備投球は、試合開始の表裏、捕手を相手に5球とし、次回から3球とする。

②試合中の野手間のボール回しを禁止する。

③守備側のタイムの制限は、7イニング3回までとする。(延長戦の場合、延2イニングで1回)

④攻守交代は、全力疾走して行うこと。

⑤打者は、速やかに打席に入り、打撃姿勢をとる。

⑥打者は、打者席を外してサインを見ることを禁止する。

⑦監督は、ピンチのとき以外は、投手を交代する時を除いて、投手のところへ行くことは許さない。

なお、選手をベンチに呼び寄せることを禁止する。

⑧投球を受けた捕手は、その場から速やかに送球すること。

⑨攻撃側のタイムの制限は、1試合に3回以内とする。延長戦の場合は、2イニングに1回とする。

⑩監督が、1試合に投手のところにいける回数は、3回以内とする。延長戦の場合は、2イニングに1回行くことができる。

## 4. その他の注意事項

①ネクストバッターボックス内外では、危険防止のためバットの素振りをしてはいけないこと。

②試合会場は、試合開始と同時に封鎖し、関係者以外の入場を禁止する。特に、喫煙・その他無用の出入りを禁止する。

③会場周辺・道路等では、バット・ボールを使う練習をしてはならない。

④開会式・閉会式に出場するチームは、プラカードを持って行進をすること。チームフラッグは、後方に飾る。

⑤自転車の駐輪は、他の通行を妨げにならないように注意すること。

⑥ごみ・空き缶・空き瓶等は、各チームが責任を持って持ち帰ること。

⑦各チームから登録審判員を1名必ず出すこと。(トーナメント大会、リーグ戦問わず)

⑧試合後のグラウンド整備は、試合終了チームが行う。また、最終試合の両チームは用具の後片付けをする。

⑨青少年育成上、監督、コーチ、スタッフ、ベンチ外問わず暴言に類するものを発することを禁止する。それらの行為が見られた場合は、即刻退場を申し渡すものとする。

⑩25年度のシーズンより、投手の投球回数制限が導入されている。投手は、1日7イニングを超えて投げてはならない。ただし、特別延長に限り2イニングまで認める。

- ⑪25年度のシーズンより、リーグ戦とトーナメント大会の運営方法を同一の形とする。  
(審判員の派遣、オーダー表の提出部数など)